

和光市制施行 45 周年記念特別展



十日町市



那須烏山市

出土遺物の 交流と結

—自治体間相互応援協定締結 20 周年記念—

佐久市



東松山市



志木市 朝霞市



新座市

和光市



埼玉県ふるさと
創造資金

埼玉県のマスコット「ロボトン」

背景の地形図はカシミール3Dにより作成

■日 時：平成 27 年 11 月 19 日（木）～ 12 月 6 日（日）

9：00～17：00

■場 所：和光市民文化センター（サンアゼリア）

展示ホール（埼玉県和光市広沢1-5）

■入場料：無料

主催：和光市・和光市教育委員会

- ①左：笹山遺跡出土火焔型土器（十日町市博物館蔵）
右：笹山遺跡出土王冠型土器（十日町市博物館蔵）
- ②左：新道平遺跡出土縄文土器（那須烏山市教育委員会蔵）
右：新道平遺跡出土硬玉製垂飾（那須烏山市教育委員会蔵）
- ③左：寄山遺跡出土縄文土器（佐久市教育委員会蔵）
右：西一本柳遺跡出土弥生土器（佐久市教育委員会蔵）
- ④上松本遺跡出土埴輪（東松山市教育委員会蔵）
- ⑤西原大塚遺跡出土縄文土器（志木市教育委員会蔵）
- ⑥稲荷山・郷戸遺跡出土弥生土器（朝霞市教育委員会蔵）
- ⑦午玉山遺跡出土弥生土器（和光市教育委員会蔵）
- ⑧越後山遺跡出土硬玉製大珠（和光市教育委員会蔵）

開催にあたって

本年度、和光市は市制施行以来 45 周年を迎えるとともに、災害時における自治体間相互応援協定を、長野県佐久市とはじめて締結をしてから 20 周年という節目の年にあたります。これを記念する事業として、本特別展「出土遺物の交流と結」を企画・開催する運びとなりました。

自治体間相互応援協定は、今日的な課題に対応する一つの交流の姿ではありますが、人類の長い歴史の中では、いつの時代においても様々な交流があったことは論を待たないものと思われまふ。そこで、日本国内に広く分布する遺跡から発掘された「出土遺物」に焦点を当てて各自治体間を振り返った場合、そこに「何らかの結びつき」を見出すことができるのではないだろうか。このような想いから、今回の特別展を企画いたしました。通常の考古学的な考え方では、似ている出土遺物から過去にどのような地域と交流やつながりがあったのかを思考していきますので、今回は全く逆の発想によるものであります。そのため、考古学や歴史の専門家の方々には、この特別展は少し変わったものとの見方があるものと思われまふが、これを一つの試みとしてご寛容を賜りますとともに、市民の皆様には遠方で直接に鑑賞することが難しい各地の文化財を、身近に感じ取ることができる機会として十分にお楽しみをいただければ考へております。

「結(ユイ)とは、「結ぶ」あるいは「解けぬよう固める」などの意味があると同時に、古来よりご近所同士での「助け合い・相互扶助」を指す言葉として使われてきております。今回の特別展では、長野県佐久市、新潟県十日町市、栃木県那須烏山市、そして埼玉県並びに県下の東松山市、朝霞市、志木市、新座市の各自治体から、「結びつき」を最優先して貴重な文化財をお借りすることができました。お陰様でこのような特別展を開催させていただくことができましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

結びに、各自治体の日頃からのご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展をご祈念申し上げます、特別展開催のあいさつとさせていただきます。

平成 27 年 11 月 19 日

和光市教育委員会 教育長 大久保 昭男

例言

1. 本冊子は市制施行 45 周年記念特別展「出土遺物の交流と結」の展示解説パンフレットです。
2. 本展示は和光市・和光市教育委員会が主催するものです。
3. 展示構成、展示内容と本パンフレットの内容は同一ではありません。
4. 展示会場と展示期間は次のとおりです。
展示会場：和光市民文化センター（サンアゼリア） 展示ホール 展示期間：平成 27 年 11 月 19 日（木）～12 月 6 日（日）
5. 展示期間中に記念講演会を次のとおり開催します。

【記念講演会】

平成 27 年 11 月 29 日（日）和光市民文化センター（サンアゼリア）小ホール

<第Ⅰ部>

「吹上貝塚とその時代」小林達雄（國學院大學名誉教授）

<第Ⅱ部>

「新潟県十日町市の遺跡」菅沼 亘（十日町市教育委員会）

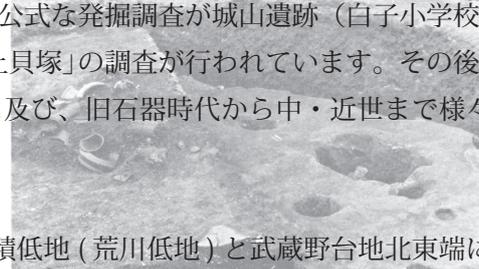
「長野県佐久市の遺跡」小林眞寿（佐久市教育委員会）

「栃木県那須烏山市の遺跡」鈴木芳英（那須烏山市教育委員会）

6. 本展示の企画は鈴木一郎が担当しました。また、パンフレットの執筆・編集は鈴木一郎・中岡貴裕が行いました。
7. 本パンフレットに掲載している写真のうち、特に写真提供機関を記していないものは当課職員が撮影したものです。
8. 本事業は、埼玉県ふるさと創造資金の補助を受けています。
9. 展示会の開催にあたり、下記の皆様・機関に多大なご協力を賜りました。記して御礼申し上げます。（順不同・敬称略）
新潟県十日町市・十日町市教育委員会 長野県佐久市・佐久市教育委員会 栃木県那須烏山市・那須烏山市教育委員会
埼玉県さきたま史跡の博物館 朝霞市教育委員会 志木市教育委員会 新座市教育委員会 東松山市教育委員会
公益財団法人和光市文化振興公社 和光市政策課・秘書広報課・市民活動推進課・危機管理室・スポーツ青少年課
石原正敏 江原昌俊 大木さおり 大久保聡 大塚広樹 尾形則敏 生島修平 加藤秀之 川畑隼人 木下実 小林達雄
斎藤純 齋藤欣延 佐藤幸恵 佐野誠市 斯波治 菅沼亘 鈴木秀雄 鈴木芳英 照林敏郎 徳留彰紀 野澤均 水口由紀子
三石建 宮島秀夫 矢口翔馬 両方裕

和光市の遺跡

昭和45年10月31日、大和町は和光市と名称を改め、埼玉県で29番目の市としてスタートしました。和光市域（大和町時代含む）では、昭和33年に市域で初めての公式な発掘調査が城山遺跡（白子小学校）で行われました。同年に「吹上横穴墓」の調査、翌34年には「吹上貝塚」の調査が行われています。その後、市域で行われた発掘調査は大和町の時代を含め100地点以上に及び、旧石器時代から中・近世まで様々な遺構、遺物が出土しています。



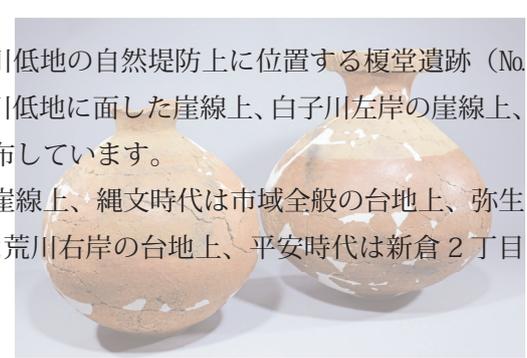
【和光市の地形】

和光市の地形は、市の北部を流れる荒川により形成された沖積低地（荒川低地）と武蔵野台地北東端にあたる洪積台地とに分けられます。標高は低地部で5～6m、台地部で27～40m程をはかり、南の台地奥へ行くにしたがって高くなっています。市内には、中小河川が流れており、特に東側を流れる白子川と西側を流れる越戸川は、大きな谷を形成し、行政的、地形的な区分の境となっています。その他、市内の中心部を流れる谷戸川は、谷中川と合流し蛇行しながら、越戸川にそそいでいます。市内の台地は、荒川も含めこれらの河川により浸食が激しく、多くの小支谷が形成されています。そのため、谷に挟まれた台地は幅の狭い複雑な形状となっています。

【市域の遺跡】

現在和光市内で確認されている遺跡は43カ所であり、荒川低地の自然堤防上に位置する榎堂遺跡（No.23）以外はすべて台地上に位置しています。遺跡は主に、荒川低地に面した崖線上、白子川左岸の崖線上、越戸川・谷中川・谷戸川の支谷に面した小規模な台地上に分布しています。

市内の遺跡の時代による分布状況は、旧石器時代は台地の崖線上、縄文時代は市域全般の台地上、弥生時代は白子川左岸の台地上と荒川右岸の台地上、古墳時代は荒川右岸の台地上、平安時代は新倉2丁目の台地上に主な分布がみられます。



【主な遺構・遺物】

縄文時代では、越後山遺跡から優品のヒスイ製大珠が見つかりました。弥生時代の環濠集落として知られる午王山遺跡は和光市で初めての市指定文化財（史跡）に指定され、県内でも有数の環濠集落として知られています。

奈良・平安時代の調査では花ノ木遺跡から青銅製の火熨斗が出土しました。これは検出例が少なく、埼玉県重要文化財に指定されています。また、市内では漆台遺跡から出土した円面硯をはじめ、墨書土器が検出されており、この時代に市域には文字を書いていた官人らが居住していたことを証明しています。

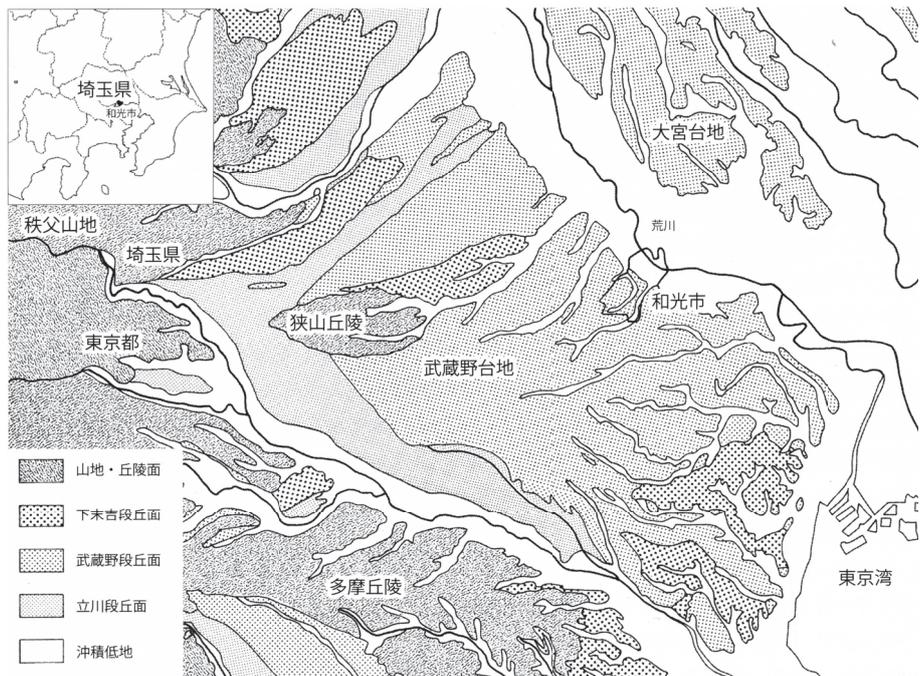


図1 和光市周辺地形図

十日町市

位置：経度 138° 45' 20"・緯度 37° 07' 39" (市役所)

面積：589.92km²

人口：58,911 人 (平成 22 年国勢調査より)



新潟県十日町市は新潟県の南東部に位置し、日本でも有数の豪雪地帯として知られています。市の中央部には信濃川が流れ、その両岸の河岸段丘には多くの遺跡が所在しています。特に縄文時代の集落は多数存在しており、中でも笹山遺跡から出土した火焰型土器を含む深鉢形土器 57 点と土製品・石器・石製品を合わせた計 928 点は、平成 11 年に国宝に指定されています。

今回は、笹山遺跡から出土した火焰型土器・王冠型土器に加え、野首遺跡から出土した火焰型土器・王冠型土器等を展示します。



笹山遺跡出土縄文土器 (左) 火焰型土器・(右) 王冠型土器
(所蔵・写真提供：十日町市博物館)



野首遺跡出土縄文土器 (左) 火焰型土器・(右) 王冠型土器
(所蔵・写真提供：十日町市博物館)



笹山遺跡 調査風景 (写真提供：十日町市博物館)



野首遺跡 調査風景 (写真提供：十日町市博物館)



笹山遺跡 現在の様子



野首遺跡 調査風景 (写真提供：十日町市博物館)

【コラム①】 火焰土器？火焰型土器？

「火焰土器」は近藤篤三郎氏が馬高遺跡（長岡市）で 1936 年頃に発掘した土器の一つにつけられた名称です。

これに対し、「火焰型土器」は火焰土器と同じような鶏冠のような形をした突起を持つ土器群のことをいいます（新潟県立歴史博物館 2009）。

さくし

佐久市

位置：経度 138° 28' 37" ・緯度 36° 14' 56" (市役所)

面積：423.99km²

人口：100,552 人 (平成 22 年国勢調査より)



佐久市は長野県の東端に位置し、県歌信濃の国に歌われる県下四つの平の一つ、佐久平の中心に位置する、緑と清流に恵まれた高原都市です。市の中央には滑津川・片貝川・湯川の各支流が注ぐ千曲川が貫流しており、その豊富な清流により育つ佐久鯉は代表的な名産になっています。

今回の展示では、広範囲に供給されたガラス質黒色安山岩の原産地として知られる八風山遺跡群から出土した石器や、焼町土器と呼ばれる長野県・群馬県域周辺の特徴的な縄文土器、中部高地系の特徴的な文様といわれる櫛描文様の弥生土器、円面硯など官衙的な様相を思わせる聖原遺跡等から出土した遺物を展示します。



八風山遺跡 石器出土状況

(写真提供 佐久市教育委員会)



寄山遺跡 縄文土器 (焼町土器)

(佐久市教育委員会蔵)



西一本柳遺跡 空中写真撮影

(写真提供 佐久市教育委員会)



聖原遺跡 空中写真撮影

(写真提供 佐久市教育委員会)



西一本柳遺跡 弥生土器

(佐久市教育委員会蔵)



北西ノ久保遺跡 弥生土器

(佐久市教育委員会蔵)



聖原遺跡 (左：須恵器円面硯 右：丸軋)

(佐久市教育委員会蔵)

那須烏山市

位置：経度 140° 09' ・緯度 36° 39' (市役所)

面積：174.42km²

人口：29,206 人 (平成 22 年国勢調査より)



那須烏山市は栃木県の東部に位置し、県都宇都宮市から概ね 30 ～ 35 k m の距離にあります。八溝山系に属し、那珂川が平野部を貫流し、那珂川右岸には丘陵地帯が形成され、丘陵を縫うように荒川や江川などの大小河川が貫流しています。この地帯に旧南那須市街地、旧烏山市街地が形成されています。那珂川左岸は、東部山間地帯となっており、那珂川県立自然公園に属する山間地と小河川で形成されています。

今回の展示では、縄文時代中期の集落遺跡として知られる新道平遺跡から出土した大木系の縄文土器と翡翠製垂飾、平成 21 年に国指定史跡に指定された長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡から出土した須恵器を展示します。



新道平遺跡 空中写真 (写真提供：那須烏山市教育委員会)



新道平遺跡 住居跡遺物出土状況

(写真提供：那須烏山市教育委員会)



東山道跡 (写真提供：那須烏山市教育委員会)



新道平遺跡 (左：大木系縄文土器、右：翡翠製垂飾)

(那須烏山市教育委員会蔵)



長者ヶ平官衙遺跡 空中写真 (写真提供：那須烏山市教育委員会)



長者ヶ平官衙遺跡 須恵器杯 (那須烏山市教育委員会蔵)

東松山市

位置：経度 139° 23' 59"・緯度 36° 02' 31" (市役所)

面積：65.33km²

人口：90,099 人 (平成 22 年国勢調査より)



東松山市は埼玉県のほぼ中央に位置しています。標高の一番低いところは 12 m、一番高い所は 134.8 m と比較的平坦な地形となっており、市中央部から西部・南東部にかけて東松山台地、南部には高坂台地が広がり、北部は比企丘陵、南西部は岩殿丘陵の東端部にあたります。

今回の展示では、五領式土器、岩鼻式といった標識遺跡が存在する東松山市から出土した弥生土器及び古墳時代土師器、埼玉県内で初の発見となった三角縁神獸鏡さんかくぶちしんじゆきやう (※展示するのは製作当時の姿を複製した資料)、上松本遺跡下松 5 号墳から出土した人物埴輪を展示します。



五領遺跡 B 区 (写真提供：東松山市教育委員会)



岩鼻遺跡 (写真提供：東松山市教育委員会)



岩鼻遺跡 弥生土器
(東松山市教育委員会蔵)



高坂三番町遺跡第 6 次



高坂二番町遺跡第 4 次

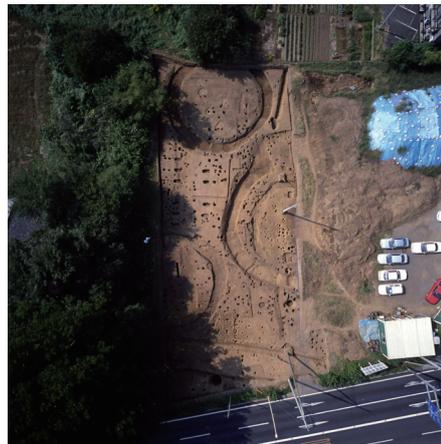
高坂三番町遺跡・高坂二番町遺跡

(写真提供：東松山市教育委員会)



上松本遺跡下松 5 号墳出土
人物埴輪

(東松山市教育委員会蔵)



上松本遺跡 (写真提供：東松山市教育委員会)



三角縁陳氏作四神二獸鏡

(所有・写真提供 東松山市教育委員会)

和光市の近隣自治体 ～朝霞市・志木市・新座市～

朝霞市・志木市・新座市そして和光市は朝霞地区四市と呼ばれ、隣接する自治体として日頃から様々な交流を行っています。四市は歴史的にも新座郡（新羅郡）と呼ばれる一つの郡を構成していたことなどから密接なつながりがあり、それは遠方に比べて出土遺物が類似していることからもうかがうことができます。今回の展示では、旧石器時代から奈良・平安時代までの間における各自治体の出土遺物を集めました。十日町、佐久市、那須烏山市といった遠方の出土遺物と見比べてみてください。

あさかし

朝霞市

位置：経度 139° 35′ 37″・緯度 35° 47′ 50″（市役所）

面積：18.38km²

人口：129,691人（平成22年国勢調査より）



朝霞市からは、稲荷山・郷戸遺跡から出土した櫛描文様が施された弥生土器、柁塚古墳から出土した円筒埴輪、人物埴輪を展示します。稲荷山・郷戸遺跡は和光市花ノ木遺跡と越戸川を挟んだ台地上に位置し、花ノ木遺跡同様弥生時代の環濠集落として知られています。

柁塚古墳は6世紀前半に造られたと考えられる古墳で、多数の埴輪が出土しました。県南部で唯一墳丘が現存する前方後円墳であり、平成14年に埼玉県指定史跡に指定されています。



稲荷山・郷戸遺跡 弥生土器
（朝霞市教育委員会蔵）



柁塚遺跡（写真提供：朝霞市教育委員会）



柁塚遺跡 遺物出土状況（写真提供：朝霞市教育委員会）



柁塚遺跡 埴輪（左：朝顔形埴輪



中央：円筒埴輪



右：人物埴輪）

（朝霞市教育委員会蔵）

しきし

志木市

位置：経度 139° 35' 01"・緯度 35° 50' 00" (市役所)

面積：9.06km²

人口：69,611 人 (平成 22 年国勢調査より)



志木市西原大塚遺跡は柳瀬川右岸に位置し、縄文時代中期の大規模な環状集落として知られています。今回は、西原大塚遺跡から出土した縄文時代中期の動物・人面を表現したと思われる土器、ヒスイ大珠、ガラス質黒色安山岩製の石器等を展示します。



西原大塚遺跡 (写真提供：志木市教育委員会)



西原大塚遺跡 (写真提供：志木市教育委員会)



西原大塚遺跡 縄文土器 (志木市教育委員会蔵。右の写真は志木市教育委員会提供)



にいざし

新座市

位置：経度 139° 34' 06"・緯度 35° 47' 26" (市役所)

面積：22.8km²

人口：158,777 人 (平成 22 年国勢調査より)



駒形遺跡は黒目側左岸の、標高 25 m 程の河岸段丘上に立地しており、新座市内で数少ない平安時代の住居跡が検出されている遺跡として知られています。

今回は、駒形遺跡から出土した須恵器・瓦を展示します。



駒形遺跡 須恵器・瓦 (新座市教育委員会蔵)



駒形遺跡 住居跡 (写真提供：新座市教育委員会)



駒形遺跡 土器出土状況 (写真提供：新座市教育委員会)

出土遺物から見た交流 (2)

石の産出地から見た交流

石器として使用される石材は様々な種類が確認されています。これらのうち、ヒスイ、黒曜石、ガラス質黒色安山岩といった石材はその産出地が限られており、各地で検出された石器が様々な地域からもたらされたことを証明しています。

和光市ではヒスイ製の大型珠、黒曜石製の石器、ガラス質黒色安山岩製の石器等が見つかっています。

(1) ヒスイ

ヒスイは日本で産出する宝石の一つです。産地は新潟県の小滝川・青海川、富山県東部沿岸をはじめ、十数か所が確認されているといわれています。和光市では越後山遺跡から大型珠、丸山台遺跡から垂飾が出土していますが、これらの材料は新潟県や富山県から運ばれてきたものと考えられます。



新潟県糸魚川市ヒスイ海岸



新潟県糸魚川市小滝川ヒスイ産出地周辺



ヒスイ原石標本 糸魚川市小滝川産
(朝霞市教育委員会蔵)

【コラム②】ヒスイ海岸と加工場

小滝川・青海川ヒスイ峡はともに国の天然記念物に指定されています。そのためヒスイはもとより周囲の石や動植物も勝手に採取することはできません。しかし富山県朝日町から新潟県糸魚川市にかけての海岸では、現在でもヒスイ原石が拾えます。糸魚川市内では、縄文時代の長者ヶ原遺跡・寺地遺跡でヒスイ原石のほか加工用の砥石、タタキ石（ハンマー）やヒスイ未成品が大量に出土し、縄文時代のヒスイ加工場が確認されています。これらの遺跡を経て、各地へ交易品として運ばれたのかも知れません。



新潟県糸魚川市青海川ヒスイ峡



富山県朝日町ヒスイ海岸



ヒスイ製品

左：越後山遺跡、右：丸山台遺跡
(和光市教育委員会蔵)



新道平遺跡出土

ヒスイ垂飾

(那須烏山市教育委員会蔵)



西原大塚遺跡出土

ヒスイ大珠

(所蔵・写真提供：志木市教育委員会)



梶花遺跡出土

ヒスイ加工品

(所蔵・写真提供：十日町市博物館)

(2) 黒曜石

黒曜石はガラス質の火成岩で、黒曜岩とも呼ばれます。長野県の和田峠をはじめ、霧が峰、高原山、伊豆七島の神津島などが原産地として知られています。

黒曜石は旧石器時代から各地の遺跡で出土しており、その原石は交易・流通品であったことは間違いなく事実です。近年では科学分析により具体的にどの原産地からの黒曜石であったかが明らかとなってきており、その流通の経路等が推測されています。



星糞峠（長野県）の黒曜石採掘跡



和田峠（長野県）周辺



図4 黒曜石・ガラス質安山岩の主な産地分布
(志木市教育委員会提供の図を一部加工して使用。)

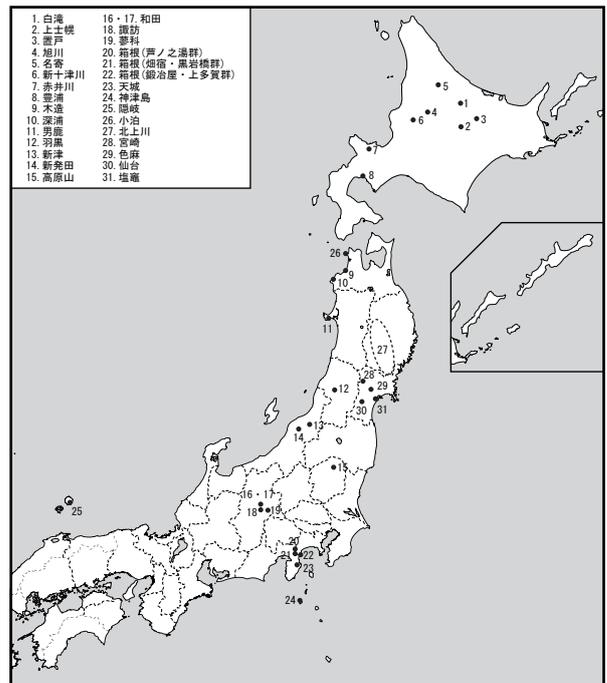


図3 黒曜石原産地位置図(北海道～隠岐)

(作図 パリノサーヴェイ(株))



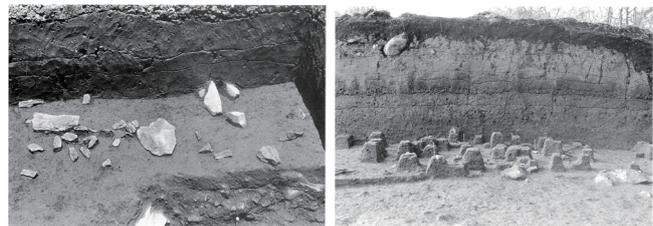
黒曜石製有楯形尖頭器
(和光市教育委員会蔵)



黒曜石製石鏃
(和光市教育委員会蔵)

(3) ガラス質黒色安山岩

ガラス質黒色安山岩は緻密で石器の材料として優れた石です。長野県佐久市の八風山周辺等で産出が確認されています。八風山原産地直下のガラス質黒色安山岩は、大型原石が存在すること等が特徴とされ、石器として各地で利用されていたことが確認されています。



八風山遺跡群石器出土状況(佐久市教育委員会提供)



ガラス質黒色安山岩製ナイフ形石器
(志木市教育委員会蔵)

出土遺物から見た交流 (3)

土器から見た交流

遺跡から発掘される土器は、時代や地域によって様々なカタチや姿をしています。そこには交流・物流・移住といった地域間で何かしらの関わりがあったことが示唆されており、考古学はこうした資料の比較検討等を通じて地域性や時期を明らかにしていきます。

ここでは今回の展示資料の中で、類似している土器をみてみましょう。

(1) 縄文時代の交流 —^{さんじゅういなぼ}三十稲場式土器—

【三十稲場式土器】

三十稲場式土器は、新潟県長岡市馬高・三十稲場遺跡から出土した資料を標識とする、縄文時代後期初頭から前葉の土器形式です。口縁直下にくびれを持つ甕形の土器が主体で、土製の蓋がつくられることが多い点が特徴的です。文様は胴部に棒状工具による刺突文様が全面的に施されています。新潟県中越地方を中心に福島県会津地方まで分布しており、地域色の強い土器として知られています。

遠くはなれた和光市丸山台遺跡からは、この三十稲場式土器の破片が検出されています。はるばる新潟県周辺から人づてに運ばれてきたのかもしれない。



長岡市 史跡馬高・三十稲場遺跡



野首遺跡出土 三十稲場式土器

(所蔵・写真提供：十日町市博物館)



長岡市 史跡馬高・三十稲場遺跡



丸山台遺跡出土 三十稲場式土器

(和光市教育委員会蔵)

(2) 弥生時代の交流 —中部高地系土器と東海系土器—

【中部高地系櫛描文様土器】

弥生時代の土器の中で、中部高地系櫛描文様土器と呼ばれる一群があります。櫛描^{くしがきれんじょうもん}簾状文と呼ばれる櫛で描いた波状、斜走、簾状の文様が施されていることが特徴です。中野市栗林遺跡を標識遺跡とした弥生時代中期の栗林式土器がその元といえる存在です。櫛描文の系譜は栗林式から吉田式(弥生時代後期前半)、箱清水式(弥生時代後期後半)とつながり、群馬県では樽式、神奈川県では朝光寺原式^{ちようこうじばら}と呼ばれる一群を構成します。埼玉県では岩鼻式などの文様が同系列で、時間がたち文様が少しずつ変化し、場所も移動してきている様子がうかがえます。和光市午王山遺跡では中部高地系の櫛描文様土器が多数出土しています。



弥生土器 (左：西一本柳遺跡 右：根々井芝宮遺跡)

(佐久市教育委員会蔵)



岩鼻遺跡 弥生土器

(東松山市教育委員会蔵)



稲荷山・郷戸遺跡 弥生土器

(朝霞市教育委員会蔵)



和光市午王山遺跡 弥生土器

(和光市教育委員会蔵)



【東海系土器 ～菊川式土器～】

菊川式土器は、静岡県県の天竜川東岸から大井川西岸の間に多く分布する土器です。壺形土器の場合、文様部分は櫛歯状工具により刺突し、疑似縄文で表すことが特徴的です。器形の特徴としては、肩部が文様帯とともに一段盛り上がることや、胴部下半が稜線が出るほど急激に屈曲し底部へすばまるといったことがあげられます。東海地方の菊川式の特徴を持つ土器は和光市で多く出土しており、その理由には土器の移動、文様技術を持った人の移動などが考えられます。なお、肉眼観察では和光市出土の菊川式土器は色調・胎土が東海の菊川式土器そのものとは異なるようです。



和光市午王山遺跡

(上：空中写真 下：発掘調査風景)



和光市午王山遺跡 東海系弥生土器

(和光市教育委員会蔵)

現代の交流 ～災害時相互応援協定と地域間交流～

和光市は平成7年に長野県佐久市と災害時相互応援協定を締結して以来、栃木県那須烏山市、新潟県十日町市、そして周辺自治体等と同じく協定を締結してきました。新潟県中越地震の際は十日町市に甚大な被害が生じ、防災協定を締結して初めて和光市から復興支援のために職員の派遣を行いました。また、防災協定を締結している自治体とは平常時においてもスポーツや文化事業等を通じて交流を深めています。ここではその一例をご紹介します。

表1 自治体間相互応援協定締結自治体一覧

締結年月	締結自治体名
平成7年9月	長野県佐久市
平成8年8月	朝霞市、志木市、新座市
平成8年9月	栃木県烏山町(※現在の那須烏山市)
平成16年8月	新潟県十日町市
平成17年12月	栃木県那須烏山市
平成19年5月	埼玉県内全市町村
平成22年8月	練馬区
平成23年2月	板橋区
平成23年3月	戸田市
平成24年9月	東松山市



平成16年新潟中越地震での支援活動^{*1}
(十日町市)



平成18年佐久市と合同の防災訓練^{*1}
(佐久市)



夏休み里山体験教室
(那須烏山市)



白子宿きもの散歩^{*2}
(十日町市と交流。和光市新倉ふるさと民家園前で撮影)



現地歴史講座
(佐久市)



スポーツ交流事業^{*3}
(写真は那須烏山市)



「十日町産魚沼コシヒカリ」の給食使用^{*4}
(十日町市との交流事業)



東松山市スリーデーマーチへの参加^{*5}
(東松山市)



朝霞地区四市芸能・芸術文化祭^{*6}
(朝霞地区四市文化団体連合会主催)

【主要参考文献】紙幅の都合により、各遺跡における埋蔵文化財発掘調査報告書の掲載は割愛した。

- ・朝霞市博物館 2004 『第15回企画展 古のひくら ～朝霞市・新座市・志木市・和光市出土品展～』
- ・朝霞市博物館 2007 『第20回企画展 埴輪の世界』
- ・朝霞市博物館 2013 『第28回企画展 縄文時代のアクセサリ』
- ・馬高縄文館 2010 『馬高縄文館解説シリーズ No.1 火焰土器と馬高・三十稲場遺跡』長岡市教育委員会
- ・小林達雄 1996 『縄文人の世界』朝日新聞社
- ・小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- ・埼玉県立博物館 1994 『検証！関東の弥生文化 一粒の米が変えたくらし』
- ・埼玉県立博物館 2005 『埼玉・歴史の道50話』埼玉新聞社
- ・埼玉県立川の博物館 2009 『平成21年度特別展 埼玉圏の原始・古代人 - 人の動きをモノから探る - 』
- ・財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター 2013 『掘ってわかった信州の歴史』
- ・佐久考古学会編 1990 『赤い土器を追う』佐久考古6号
- ・十日町市博物館 2007 『十日町市の縄文土器』十日町市博物館友会の会
- ・那須烏山市教育委員会 2014 『古代の道路と駅家』
- ・長野県考古学会弥生部会 1999 『長野県弥生土器集成図録』'99 シンポジウム『長野県の弥生土器編年』資料集
- ・新潟県・津南町教育委員会・信濃川火焰街道連携協議会 2014 『魚沼地方の先史文化』
- ・新潟県立歴史博物館 2009 『火焰土器の国 新潟』新潟日報事業社
- ・東松山市教育委員会 2015 『市制施行60周年記念事業シンポジウム 三角緑神獣鏡と3～4世紀の東松山』発表要旨資料

- *1 写真提供：危機管理室
- *2 写真提供：市民活動推進課
- *3 写真提供：スポーツ青少年課
- *4 写真提供：秘書広報課
- *5 写真提供：政策課
- *6 写真提供：人権文化課